（大正十年四月二十二日第三種郵便物認可）　昭和三年二月二十六日　磐城新聞　（日曜日）　第二千百七十四號

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵稅十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定二十錢增）
發行兼編輯印刷人　遊沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

政友會內閣に望む

雲井生

回の總選擧に於て野黨民政黨が僅少の差を以[illegible]を獲た。吾等は之を[illegible]府見地から觀て實に惜[illegible]ざるを得ない、

×

[illegible]民政黨が大政黨として存在するのは無產階級[illegible]し無產階級の御機嫌取りに汲々として夫れが爲めには如何なる手段をも擇ばず實行する勇氣があるからでもあり又た夫れが爲めには國の國体を無視し黨利黨略を主として猛進する勇斷を保持するからである。

×

随つて民政黨の優勢なる時代には必ず無產政黨が橫行跋扈して赤化宣傳に跳梁する、無產政黨の跳梁跋扈を看過することが立憲的に民衆政治の本領であると信じてゐるらしい。

×

[illegible]政友會內閣が無產黨[illegible]する彈壓と嚴重なる取締とは吾輩の最も贊意を表する所であり徒らに無產階級に阿附迎合し彼等をしてつけあがらしめ種々なる反國家的思想を撒布せしめつゝある民政黨の行動に對しては斷じて好感を持つことが出來ないのである

×

最近問題になつた鈴木內相の聲明書に對する民政黨の態度などに對しても吾輩等皇室中心主義者から觀れば「議會中心政治を徹底する」云々の文字の如きは民政黨が反駁する如き意味には決して取れない、矢張り鈴木內相の聲明の如くに解釋せざるを得ない

×

畢竟するに民政黨が內心は國家本位であるに拘らず黨派黨略本位の必要上無產階級[illegible]はんが[illegible]解釋[illegible]付方で[illegible]解釋出來ると議[illegible]政治[illegible]云ふ欺瞞政策を掲げてゐるのでもあらう。

×

即ち黨略のために其手段を擇ばざる民政黨の內面を暴露したものであつて、民政黨が無產階級に阿附し其の結果が知らず〱共產主義者の跋扈を默認することゝなるのである。

×

若し民政黨にして眞に國家國体を思はゞ一切の假面を剝いて以て共產主義者の一掃を期し、飽迄も皇室中心主義の徹底を期すべき政策を掲げよ、今日の如き政治的混亂、政治を主とする社會的混亂、を平然として眺むるが如きは眞の日本國民の集團としての政黨して吾輩は贊意を表することが出來ない。

×

日本帝國は理想のために建てられた國である、存在そのものが正義であり、正義のために存在する、然して其の主張と相容れない無政府主義者、共產主義者の存在を赦し、自由にその跳梁跋扈を許して置くが如きは日本建國の理想に背反するものであり斷じて許すべからざるものである。

×

今や民政黨盛んなれば無政府主義者、共產主義者橫行し、政友會盛んなれば屏息する、わが日本帝國の現狀を觀て吾輩は民政黨の行動を疑はざるを得ない、若し民政黨が故意にも亦無意識にもせよ無政府主義者、共產主義者の橫行を漫然默過して居るものなりとするならば吾輩は民政黨は國家國体を眼中に置かざる不臣不義の亂臣賊子の集團なりと斷定して憚らない。

×

[illegible]吾輩は[illegible]政友會內閣[illegible]り故を以て內閣の總辭職を敢てするが如きを避けんことを望んで止まぬ、何故なれば政友會內閣の存續する限り共產主義者、無政府主義者の跋扈を防止し得るからである、之に反して民政黨內閣出現するが如きことあらば無政府主義者共產主義者所在に橫行跋扈して到るところに勞働爭議小作爭議頻發し、國家の產業は破壞され隨つて景氣は益々沈滯し國民は常に塗炭の苦を嘗めざるを得ないからである。

×

政友會內閣並に與黨に望む、決して內閣を投げ出す勿れ、國家の理想を實現するが爲めには立憲的ならずとも可なり、[illegible]のために即ち黨利政略のために手段を擇ばざる政黨が國家の理想を實現する[illegible]爲めには[illegible]立憲政治などに膠着し居るの要を認めない、といふ議論も爲し得るからである。

×

即ち日本帝國本來の面目を發揮するが爲め此の機會において皇室中心主義を徹底に主張し反國家的思想の下に妄動する徒輩を徹底的に一掃するが爲めに力の政治を發揮せよ。」

×

吾輩は鈴木內相の聲明に共鳴するの餘り本文を草して政友會の勇斷を要求して止まぬ。

（終り）

和歌

小川郷　吉岡獨歩

木村氏の當選を祝す

古の木村の梅もかくやらん花も實もある君の武者振

第三區木村、松本兩氏の勝利を祝す

西東轡並べて千軍を踏み破りたる武者振雄々しも

福島縣政友會萬歳

諸人の踏むに任せし道芝も今日萌出る春に逢ふかな

俳句

木村氏の當選を祝す

霜雪の忍苦に堪へて梅白し

第三區木村松本兩氏の勝利を祝す

梅三た樹庭一面に咲き滿てり

福島縣政友會萬歳

綱曳や凱聲あぐる四年越

雜吟

ポスターの剝ぎ出現はに春寒し

山國や春雪踏んで普選デー

明日の吉凶

新暦二月廿六日

舊暦二月六日

▲三碧　進退兩難の日百事愼守せよ旅行見合すべし▲四綠　內事吉外交不利旅行轉居も不可病ひ用心▲五黃　散財勝ちの日また目の下の者のために勞苦困難あり▲六白　誤解を招き易き日外交上特に注意婚凶▲七赤　吉凶半ばす機を見て進退せよ旅行轉居可▲八白　辛勞のことある日至直なれば無事多慾をいましむ▲九紫　得意の日新築起業婚姻相談吉病用心▲一白　多情の人は出先ぎを注意過失を招ぐ日謹愼▲二黑　後悔を招ぎ易き日舊態を改めざれば無益

講談

闇に閃く男達

(24)

高田涙川作　尾崎雪鷹畫

母子の義理

母は子をかばい、子は母の無實を訴へる、これが我國の美しい人情である、近來西洋かぶれの思想から己の罪を人になすりつけこそすれ、他人が引受けてくれたのをイヤそうぢやない、全く私の罪ですなどゝ實を吐くものがあらうか、實に歎かはしい事である

「コレ〱、重太郎、お前はなにをいふのぢや、他のものなら兎も角大切な寶物を破ればとても命はない、義理にも母を助けん爲にさうしたかばい立てはうれしいはうれしいが何を申してもお前は當家の跡をつぎ生ひ先の長い身体、妾の死ぬのは當り前決して心配をしてたもれでない」

母はあく迄も重太郎を救はんとする

「イエ〱母樣、その思召は有り難うございますが全く私の粗忽より起りし事でございますればサア父樣どうか私を御成敗下さりませ」

「イヤ〱、重太郎ではございません。妾の過ちなれば妾を御成敗……」

母子生命を投げだして重兵衛の左右から寄る、重兵衛は先刻より妻と子供のいふ事を耳にしながら膝に手をおきジーと考へてゐた

「イヤ分つた、左樣に兩人して爭ふ所を考ふればコリヤ兩人にて致せし事に相違あるまい、あの菊水の茶碗は今更申すまでない渡邊家傳來の寶であるから先祖へ申しわけの爲に、兩人の生命をとつて祖先へ詫びをいたす左樣心得ろッ……」

かねは素より覺悟の前であるが、義理ある重太郎もその罪がかゝるとなれば自分の犧牲もむだになつたと同じである、しかし平素荒い聲さへ出さぬ、重兵衛が斯くまでいふのだからよく〱の事であらう、この上いふも早せんなきものとあきらめ、良人のいふまゝになつてゐる

「サアかね、只今も申する通りであるから渡邊家の先祖に對する申譯の爲その方と重太郎の一命をとるから覺悟いたせッ……」

母子は觀念のほぞをきめてゐる

「ハイ承知いたしました」

「そこで兩人を一緒に成敗する事は相成らん、先づ倅重太郎より先に手討にいたすであらう」

「どうぞ妾より先にお願ひ申します」

母は死の瞬間となる子供をかばはんとするのである

「イヤ良人に對して言葉を返すなッ……」

妻を叱り置き

「サア重太郎覺悟いたせ！その方も武士の倅なればたとへ年は行かずとも斯樣な失策をいたせし上は命のない事は元より覺悟であらう」

重太郎は少しも惡びれたる氣色はない、父に裏の庭へ引出された、誰一人こゝへ入れない重兵衛は自分一人で成敗せんつもりである庭に荒菰を一枚しき、重太郎を坐らせ一刀をとつてその後へ進んだ時靜かに切戸を開くものがあつた

「それへ參つたのは何者ぢや」

と振向見ると仲間姿の男である

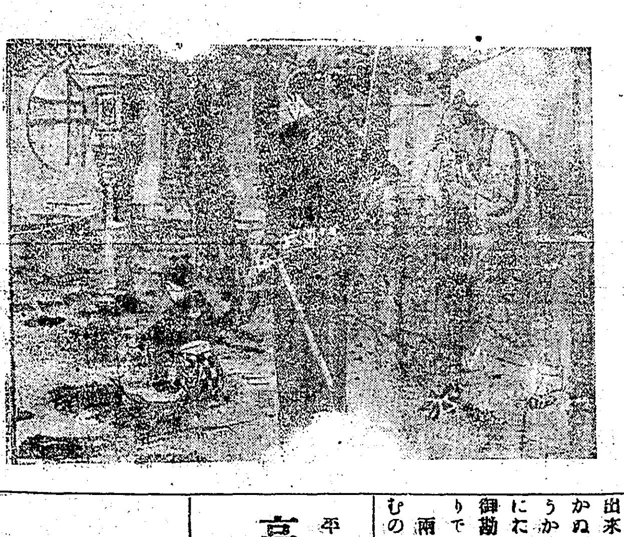
「オーその方は善助でないか」

「ヘイ善助でございまする」

「なんと思ひこゝへ參つた！先程より懇々と申せし通り成敗のすむまでは例へ如何なる用事があつても參る事はならんと申しおいたではないか」

「イエ、そりやア存じてをりますが少し旦那樣に折入つてお願申したい事があつて參りました、と申すのは他の儀でもございません御承知の通り先の奥樣がなくなり遊ばした後はこゝにたいで遊ばす重太郎は乳母がゐやうと誰がついて居りましてもこの善助は部屋へおいで遊ばさんと氣がすまんといふ位、又この善助も一寸の間でも重太郎樣のお姿を見ませんと何だか物忘れした樣な氣持がいたしまする、それが本當の主從の緣とでも申すものであらうと存じます中に、今度お迎へなさいました奥樣が佛樣めたされた御實子の政二樣と申しませうかお腹をお痛を打すてこの重太郎樣を大切にお可愛がりなさるにつけ世の中に義理ほどこわいものはないと思つて居りました、つきましては今日の出來何を申せまだ年はも行かぬ坊樣のなされた事、どうか此度ばかりはこの善助におまかせ下さいまして、御勘辨下さいませ、この通りでございます」

兩手を合して重兵衛伏拜むのである。



高久病院
平町田町
電話五一三番

營業品目
組糸、絹紡績糸、染糸、組紐
綿糸、漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
真綿、其他糸物一式
東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
電話浪花三五一二番
振替東京三三四〇番
糸界の羅針盤糸組通報御一報次第直送
小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

內科。外科。婦人科。
小兒科。花柳病科。
磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

診察無料
如何なる重患でも直ちに癒る三丁目の大谷へ御出下さい
院長博士　敬白
大谷時計病院
電話一一九番

化粧くづれのない
固煉白粉
一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固煉白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固煉白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧栄のする特徴を有つてゐます。
三　このホシ美固煉白粉こそ、皆樣の御滿足を購ふことの出來る品でございます。
ホシ美固煉白粉
東京　星製藥株式會社　大舖

生花教授
池ノ坊流　生花を懇切叮寧に御教授いたします、お遊びがてら御出で下さい
平町五丁目（釜屋橫町）
須藤まつの

營業種目
內地材　材木各種、羽柄材各種
建築諸材請負
礦山用坑木其他諸材請負
外材部　米松、米杉、大角製材調達
請負　其他
佐藤材木店
常磐線平町　新川町
電話三三五番

X光線
外科專門
入院隨意（自炊の便あり）
平南町
上田外科醫院
電話一二九

町民の注目を惹く
平町豫算の修正
新規事業は學校新築
委員會結果如何

平町に於ける昭和三年度の豫算町會は特別會計、屬する水道部豫算を除いて約四十五萬圓に達する驚くべき數字を示し前年度に比し十七萬圓と言ふ巨額の大膨張を見、事は昨報の如くであるが勿論此の大膨張を見たのは多年町民から要望されてゐた第三小學校新設か計上された結果で然、第一、第二小學校の增築と共に計上された新設費は二十四萬九千五百八十五圓（但し今年度支出は十六萬五千圓）で本年度總豫算額の半を占めてゐるが今原案に依る新設費並に增築改築費の內容を瞥見すれば

△第三小學校建築費（但し二ヶ年支辨）金二十一萬八千六百七十一圓即ち內譯は敷地一坪七圓と見積つて七千三百坪の買收費五萬一千一百圓次は基礎工事費の一萬七千五百三十一圓、建坪千三百二坪、平家二十一棟の建築費が九萬八千九百七十四圓、敷地盛土代を一坪六圓として四萬三千八百圓等が重なるもので更らに第一、並に第二小學校に於いては各れも一萬五千四百圓を計上し各別に二階建校舍延百八十坪を增築する即ち今年度支出の十六萬五千圓の內譯は前記の外材料費一萬八千六百圓を加へたもので明廿六日開かれる委員會の結果は此の原案に如何なる修正か加へられるか頗る注目されてゐる

海岸一帶を襲つた
稀有の大暴風
昨夜半に及むで
被害は案外僅少

石城郡地方一帶は昨廿四日午前十一時頃から突如稀有の大暴風が襲來し殊に双相二郡方面は午後一時頃から大旋風のため人畜其の他に被害多く常磐線上下各列車の如きは双葉郡廣野、木戶驛等に停車したまま運轉不能に陷入り此れが爲め平驛着上り列車は各々も二時間乃至四時間の大遲延を見たが此の大强風の被害に就いては平署を初め四ツ倉、植田の三署が目下調査中であるが輕微な被害二三を見て程度で强風の割合には各れも被害か少かつた

事實は政友の勝
◇…民政黨の醜い橫車

◎判明した總選擧は、先づ民政黨の勝利に終つて居る。勝利と謂つても單に豫想に對してだけだ。勝利は固より絕對でなく、徹底でなく、選擧前の勢力に比較してゞもない。否選擧前の狀態に比較しては實質上、少しく劣つて居るのだ此の選擧前の狀態に比較した結果を以て、民政黨本部が大はしやぎにはしやいで居る處を看よ、その豫想に比較した勝利の實際が讀める。◎民政黨の勝利であるが

結果如く、政友會も事實上の大勝利。だがその事實上の大勝利を博して寧ろ遜面を見せて居るが如く噂されるのは、これ亦豫想に比較しての話である。豫想は民政黨が大いに叩かれて政友會が大に伸すであらうといふのであつた。此の豫想は見事に裏切られた。選擧の結果は政民兩派の事實上の對等である。此の事實上の對等の實現の上に民政黨の勝利を祝すべき理由があるのだ。

◎所謂絕對多數は黨派が爲めに如何に便利であらうとも、國民の爲めには往々にし、迷惑至極なのだ。所謂多數黨の橫暴に常に其の絕對的勝利に根ざして來るんだ。過不及は社會の禍であり至公中正は人間の理想である。所謂積極政策の弱點は政策其物に在るのではなくてその行き過ぎに在るのだ。此の積極政策の行き過ぎを牽制するに足る一の方法は、與黨が極めて危險な多數の上に置かれることだ

◎若し政友會が政治家として、眞にその手腕を揮はんと欲するならば、今日は眞に絕好の機會である。かに一名にせよ、二名にせよ多數を制したことは一機會である。直立不動にせよ仁王立にせよ退却を餘儀なくされず濟んだことは機會である。與黨、致命傷としての黨個々の橫暴的要求を斥けることの出來るのは一の機會である。與黨が極めて危險な多數の上に立つて居る所謂轉禍爲福此の危險を懸して安全に置きかへるには唯一の倫理力に縋る許りある。

◎無い意見の總仕舞だ如何に政治の倫理化を高唱して、黨が議會に多數を擁する限り多數の橫暴はその必然の一結果となる。今や二大政黨は共に絕對力を缺いて居る。その他の分散的少數黨は統一力を缺いて居る。今やいづれの黨派も政治は力也、政治は勢力也と即ち多數黨の意の儘也といふが如き呑ん氣なことが言へなくなつた。橫車は押せなくなつた。一瀉千里の流獸的進行は不能となつた窮して變じ變じて通ず天運循環の道理は今や政黨の進行に現はれて居る。今や與黨の進行に現はれて居る、今や與黨は二重の警戒に襲はれて居る。民政黨に對する警戒が一つ無產黨に對する警戒が一つ。此の時に當つて自らその倫理力を國民の前に提供する以外に方法がない。

汽車は不通
平驛で待つ

平驛發午後一時二十一分上り二二六號列車は龍田驛に於て暴風のため線路に故障を生じ進行不可能に陷つたので平驛着午後一時五十六分下り二〇三號列車は危險のため平驛に停車し暴風の止むのを待つて發車した

烈風中出火
木材倉庫倒壞

石城郡植田町字橫町材木商藤川信人方の木材倉庫四棟が倒壞し損害目下調査中、なほ石城郡植田町字臺町株式會社植田魚市場にも相當被害ある模樣、植田署管內川部村大久保地內に山林火災起り暴風のため火は忽ちのうちに延燒し目下ます〳〵延燒しつゝあるので被害は甚大と見られてゐる

堅實な基礎の上に
川瀬炭礦發展
滯納處分の裏面には
特別な事情潛在

石城郡赤井村川瀬幸治氏の個人經營に係る川瀬炭礦は遠く去る大正十五年春中央石炭株式會社及寶山炭礦の所有に係る鑛區三十餘萬坪並に赤井驛より山元、至るの專用線約二哩を含め二十六萬圓を以て川瀬氏が買收し爾後銳意經營を續けてゐる

而して

川瀬氏が同鑛を買收せる頃より逐次炭礦界は不振の底に辿り常磐に於ける他の群少炭礦は悉く休山、倒壞の浮目を見たけれども由々炭礦經營に非凡な手腕と社界的信用、篤く川瀬氏は之の難關を容易に切り拔け所謂堅實な小世帶礎々築き上げ現在は勞働從業員五百餘名を擁し一日二十噸宛の出炭を見炭質好良にして各市場に歡迎され經濟的に極めて堅實な彈力と將來益々發展の

可能充分なるものある折柄回約一千圓の鑛區稅未納の廉により財產處分の公告に遭つた爲め一部の人々は恰も同炭礦が經濟的に極度の行詰りを生じ果ては休山の止むなきに至るではないか等と宣傳してゐる向きもあるが同鑛區稅の未納問題には些さかの事情が潛在してゐる、即ち同坑が未だ中央石炭會社の所有に係る當時鑛區稅の滯納せるを事實を隱密に附し川瀬氏の手に移した爲めその間

行き違ひが生じ表面の所有主である川瀬氏の滯納となつたけれども事實は如上の通りにして是れを以て川瀬炭礦の經濟能力を測判し得ぬ許りか同炭礦は非常な實力と基礎の上に[illegible]の發表を注目されてゐる

爭議に比べては
選擧の方が樂
綿の樣に疲れ果てた
平署員の述懷

石城郡地方に於ける選擧騷ぎの眞最中は少くて一日十ヶ所多い時には往々十五六ヶ所に亘つて開催された各候補者の頻繁な演說會に對しては候補者はじめ各應援辯士の骨折りもさる事ながらそれよりも一層ひどいのは而も各候補者の當落には

左程深刻な關係がないに拘らず毎日同じ樣な我黨禮讚の手前味噌と反對黨に對する痛擊とを聽かされ乍ら朝から夜半迄これが取締の奔命に疲れた警察官公で之等は何れも昨今漸く選擧の幕を閉ぢて些か少閑を得疲れ腕を托しながら東奔西走のありし日を愚痴り合つてる態は職掌柄とは云へ眞に氣の毒に見られる節あるが選擧は昨春警察官として連日奔命に疲れしめた炭礦爭議の如く果して何時になつたら警戒を

徹廢し得るも殆ど目當のつかなつたのに較べ苦しいとは云ふものゝ先が見へてゐただけ爭議よりは遙に良かつた、とある警官の述懷

江名信用役員
改選の新氏名

石城郡江名町信用販賣購買組合では今回左の如き役員の改選をなした

▲理事中田政吉、太清右衛、門澤辰之助、吉田正雄、佐藤德太郎、讃部嘉藏、吉田藤吉▲信用評定委員作山庄司、吉田庄之助、小山茂吉、田中扇五郎、吉田權右衛門、酒井辰造、田中宇之助、阿部七之助

興味の中心に立つ
縣下卓球大會
あす元郡會議室で
優勝果して何誰

平卓球協會主催の第一回縣下卓球大會も愈々明二十六午前八時から舊石城郡會議事堂に於いて華々しく開催する事になつたが旣に出場希望チーム二十四チームの申込を受けた主催者側は何れも地方に於ける最初の催しであるだけ萬全を期し準備に努めてゐるが申込チーム中には福島、郡山等は勿論隣縣茨城の日立昭和會もあり同會は茨城卓球界の霸王として同縣下を風靡してゐる强チームであるから縣下出場チームの一大恐威である事は疑ひなく榮ある大カツプは何れのチームに歸するか先優勝候補としては福島卓球界を牛耳する百七銀行チーム、七十七支店チーム、平銀行、磐炭、第一小學校等が數へられてゐるが全く豫想さへも付かず當日は大カツプを中心に一大白熱戰が演んせられるものとして各方面愛球家の血を躍らしてゐる

至つて動かぬ
平驛の貨物
配事の對策

貨物の輸送も選擧の影響を受けて非常な閑散に各驛では空車か太あくびの態であるが配車係は語る「本年は米價低落のため肥料の購入も少いだらうといふ見方もあるが、安くも非常な豐作でまだ農村には多量の米があるから肥料の購入も例年よりへるとは思はれない、たゞ自重してゐるため二、三月は少く實施期の四五月に入つてから一度に買ひ込むものと思つてゐる、先日も運輸協議會もこの問題に基いてそれ〴〵配車の對策を講ずることにきめて置いた」云々

四倉町の
晝火事
旅館の竈から

石城郡四倉町新町旅館松本文太郎方から二十三日午後二時頃發火ぬはや大事に至らんとしたが直に消防がかけつけたので半燒にて二時十分鎭火した原因は竈の火の不始末からで損害五百圓だと

豫算案委員附託
廿八日頃本會を開く
平町會豫算審議

平町に於ける豫算町會は昨報の如く二十五日午前十時から開催したが二年度の追加豫算を審議の後豫算案並に決算は委員附託とする事となり左の諸氏を委員に推して午後一時散會した

△豫算委員
青沼鋒太郎、柏原愼吾、井上茂作、星野清吉、鷹崎貞衛、岩本重雄、櫻井清、諸橋國松、大森勇、渡邊貫一、荻原義雄、吉田五平、永山義太郎、佐々木龍若、吉田定太郎

△決算委員
阿部唯次郎、佐藤芳松、加納五郎、會川卯三郎、荒川淺次郎、松崎菊三郎、佐藤岩次郎、阿部太平、大谷久藏、遠藤林松、丹野榮三郎、森本盛一、野崎滿藏、花澤久一郎、阿部政右エ門　（以上）

尙委員會は明廿六日午前十時から平町役場に召集委員長の選定をなした上原案の審議をなし廿八日頃本會を開く筈

農事講習會
小名校に開會

縣農會主催の石城に於ける農事講習會は五日間の豫定で廿一日から小名濱小學校に開催されてゐるが講習は縣農事試驗場田中技手の土壤及肥料學一般で講習生は毎日一日三十名內外に達し頗る好成績を見てゐる

民政派と結合して
勞働爭議を誘發
無產派の擡頭に伴れ
常盤炭界の影響

常磐地方に於ける各炭礦では今回の總選擧に當り無產各派代議士の出現に對し今後勞働爭議等の場合に如何なる影響を招來すべきかに關しそれ〴〵考慮の結果無產各派は比較的現在の野黨たる民政黨と提携結合すべき

性質多分なるを看取し心竊に與黨に於て多數を制するを祈念してゐたものゝ如くであつた實は期待に反し野黨割合多數を占むるに至つたので無產各派八名の勢力は未だ以て知るべからずとするも之と呼應して地方選出民政黨代議士がその去就を決するが如き場合あらば會社側にとつて或る程度の影響は免れ難いものがあるといふので會社內外の一部有識者は今度この方面の動きに對し極めて神經過敏な觀察を過はんとしつゝある情勢にある一面無產黨代議士の去就はしばらく云はずとするも

昨春同地方に於ける爭議當時の實情に徵し地方選出民政黨代議士の此問題に參與する場合ありとするも其れは左程深刻なるものではあるまいと觀測しつゝある向きも少くない

十二神像の
基礎工事
委員視察出發

赤井嶽藥師に十二神將の銅像を建立奉納すべく發起有志者間に於て夫れ〴〵準備をなし像は平町工藤源吉氏によつて作製中の旨本紙既報したが安置所の基礎工事並に背景等視察の爲め發起者數氏は成田山及び高雄山を視察すべく今廿五日午前九時平發にて出發した

明日休刊

不正商人を
征伐
平署で嚴重に

平署が選擧取締りの爲め一般の取締りが手薄となつたのにつけ込み最近管內各所に不正度量衡器を使用し日用品食料品等の販賣や政爭に飛廻る亭主の留守宅に付込み押賣り的の不正商人が橫行もして居るので選擧終了と共にすかさず之等の惡商人の檢擧に取りかゝつた

ナフトール着尺
着尺モスリン
模樣名仙
平
龜田屋
電五七

平町紺屋町
藤沼醫院
電話五〇七番

梅は咲き櫻は笑ふ
昭和の春衣宣傳賣出し
二月廿五日より七日間
一、木紋錦紗京御召
一、伊勢崎模樣銘仙
一、クレーモスリン着尺（虫クワズ）
一、帶　御側（大好評レーヨン）
一、レーヨン小紋（嶄新式）
特賣品
○白キヤラコ足袋　十五錢
○キヌ天足袋　二十錢
（但シ一人二足限リ）
◎御祝儀御仕度は祝意を表し特に勉强可仕候
◎各品豐富に取揃へ陳列仕候間是非御來店御批評の程奉希上候
平町三丁目
三井呉服店
電話三八番
七五一

謹告
來る二十六日午後一時より平町平劇場に於て政友會
木村清治氏當選祝賀會を開催致候につき左記お含みの上御來會被下度候
一會費五十錢（當日御持參の事）
發起人一同

良品廉賣に勝る商略なし
磐城平町五丁目
磐城セメント株式會社特約代理店
和洋銅鐵
金物問屋　(久)　釜屋商店
諸橋久太郎
電話九番　一三九番
振替貯金口座東京一〇九五六番
確實敏捷は(久)の生命なり

平町郊外關ノ上
土木建築請負　強口唯七郎
電話四〇一番
砂利、砂は御用命あり次第砂一升砂利一俵以上直ちに御屆けいたします

登錄商標
醸造元
福島縣平町
山崎合名會社
電話　營業部一〇番　醸造工場一二七番
振替東京一九七五五番
東京支店
上野車坂町四三
電話下谷五七二三番
振替東京六八三二一番